

## 和風日本序論

### 世紀・千年紀国家に関する十条

堀 亜起良 東洋哲学者

h o r i a k i r a

2019・令和（後平成）元年5月3日～

**1 三世代平等社会** 21世紀に高齢化（長寿化）が進んだ先進諸国から「青少年」「中年」に加えて「高年世代」（高齢化率25%+）が形成されて「三世代平等社会」が登場します。それぞれの国にふさわしい三世代平等のしくみと三世代個別のモノ・サービス・居場所・施設づくりが課題です。日本はその先例をつくる立場にあります。

**2 非軍事平和国家** 20世紀世界大戦への反省としての国際的成果である日本国憲法。非軍事平和国家づくりは日本がなすべき21世紀最重要の事業です。憲法九条がもつ国際性は平和と軍事の偏務性。敗戦国の日本は国際的モデルとなる平和国家づくりに専念し、軍事力を保持してそれを守るのはアメリカをはじめとする戦勝国側です。

**3 東洋の哲理** 東洋の哲理は「初めに生命あり」で、人間の生命は「からだ（体）・こころ（心・志）・ふるまい（行）」の三元（三身）から成り立つ存在。西洋の哲理はモノと見えない神GOD（心性）の二元論で、その一神教的文明を21世紀・第3千年紀に多神教的共生の文明がひきつぐこととなります。

**4 和風日本** 海外から優れたものを取り入れてこの国の風土に適したさらに勝れたものを作り出してきた民族特性。和服・和食・和風住居に精華をみることができます。その特性を活かした21世紀・第3千年紀でのさまざまな分野での「和風」活動・事業は日本の存在感を高めます。地域特性を活かして定着させたものが「国風」です。

**5 国際日本（ジパング）** 国際的には極東であり極西でもある日本（ジパング）はこれまでに西からの東からの技術・文化を取り込んで歴史的国際的鉦脈をつくっています。外国人によるその鉦脈さがしが21世紀のクールジャパンです。日本でのモノや暮らしのなかに祖国では失われてしまった祖型を見つけ出しているのです。

**6 日本語を国際共通語に** 日本語は「漢字かなカナROMA字まじり」という多重型言語。多重型言語によって単一民族・文化を成立させています。英仏中などの征服型言語とともに国際共通語に。各地に国際大学・国際会議場・スポーツ施設・博物館・美術館・音楽館などを展開して、常に日本語を国際的な場で用いることで内容を豊かに。

7 **女尊男卑の世紀** 地球上に未知の外敵（仮想敵国）がなくなった21世紀には戦う性である男性は後退し、産む性である女性による国際共和が主流に。数千年紀にわたった男性優位の武力による紛争解決のしくみを変える転換期である21世紀は女尊男卑が優先され、3千年紀のうちに細部にまで検討を加えて男女平等を成立させる。

8 **自治体の三センター制** 住民の健康を守るのが地域包括支援センター。住民の保持している熟成した技能を活かすのがシルバー人材センター、高年期の人生に必要な技術や知識を習得し地域の暮らしに活かすのが生涯学習センター。住民に接する公的機関である自治体は、新たな長寿期を過ごす「高年世代」の活力によって再生します。

9 **公立生涯大学校** 高齢化が進んで「高年世代」（高齢化率25%+）が成立した自治体から、公立小学校・中学校とともに高齢者を対象とする公立大学校を設立します。長い高齢期の生きがいとなる技術系の園芸・陶芸・音楽といった専科を設け、高齢期に必要な知識を講座で共有し、生涯の学友を得ることができる施設として運営されます。

10 **日本将棋を国際的ゲームに** 戦場での闘いをもとにした遊戯チェスや象棋とともに日本将棋を国際的ゲームに。敵対したコマを盤上から抹殺していくチェスや象棋と異なって死者を出さない日本将棋の人道性は貴重な特色です。すべての戦死者を英霊とする国民性は、平時での平等の志向に通じます。子どもたちに日本将棋を教えよう。

#### 欄外 「日本国憲法100年」の国際的式典

国民性を活かした「和風」（4）事業の最重要課題が「非軍事平和国家」（2）の形成です。先の世界大戦で侵略の加害者となり原爆という終末兵器の被害者となった日本が、その国際的歴史的経緯から学んでなすべき事業が「非軍事平和国家」の形成です。国際的モデルとしての日本の平和国家づくりを各国（とくに中小途上国）の反軍事平和志向の市民と共有して、2047年に「日本国憲法100年」の国際的式典を行うこと。主催者はそのとき100年の平和の証である戦後生まれ（1946～1950）の平和団塊世代の代表で、人類が平和の未来をめざして進むことができることを、「憲法九条」を高く掲げて世界に訴え、「世界平和宣言21」を日本語で起草し発表します。